



矢野 邦夫 先生

浜松医療センター

院長補佐 兼 感染症内科長 兼 臨床研修管理室長 兼 衛生管理室長

’81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、’89年 フレッドハッチンソン癌研究所、’93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。’96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。’97年 感染症内科長／衛生管理室長に就任。2011年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索

Click

株式会社メディコン

COVID-19予防のための家庭の洗浄剤や消毒薬に関する知識

COVID-19の感染対策では洗浄剤や消毒薬が頻回に用いられる。それらは安全かつ適切に使用され、保管されなければならない。しかし、多くの人々はどのように取り扱うべきかの知識を持ち合わせておらず、危険な行為を行っていることがある。これに関してCDCが調査結果を報告しているので、そのポイントを紹介する(1)。

■ 目 的

COVID-19の流行が始まってから、洗浄剤や消毒薬への曝露に関連した毒物センターへのコールが急激に増加した。そのため、2020年5月に米国の成人502人を対象に調査が実施された。その目的は、COVID-19パンデミックの期間での家庭の洗浄剤と消毒液に関する知識と使用法について解析することである。

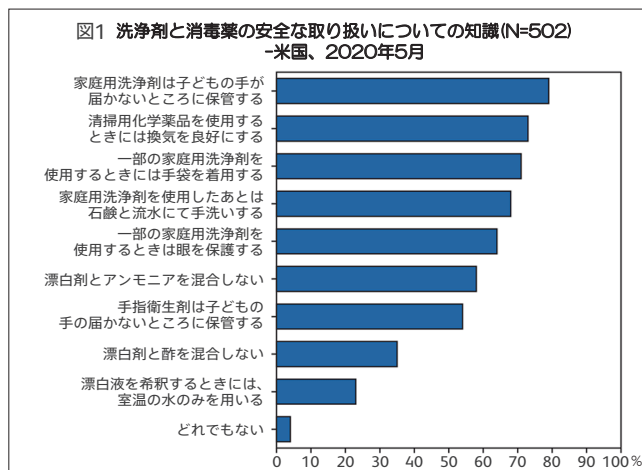
■ 結 果

回答者の年齢中央値は46歳（範囲＝18～86歳）で、その52％が女性であった。

【洗浄剤と消毒薬の安全な取り扱いについて】(図1)

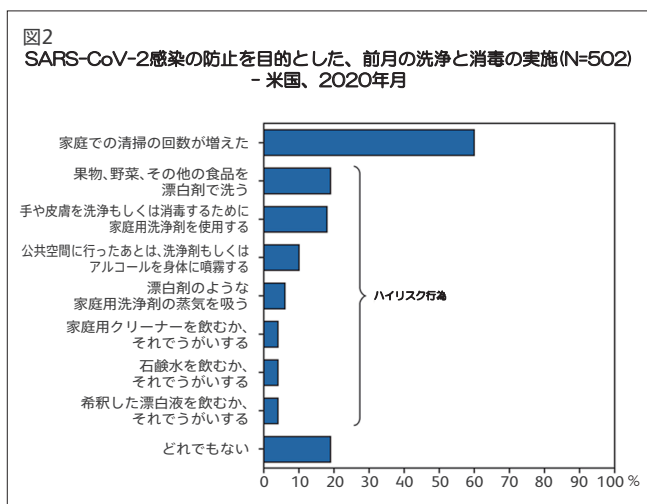
個人防護具の着用については、多くの回答者が知識を持っていた。一部の洗浄剤と消毒薬を使用するときには眼を保護すると回答したのは64％であり、手袋を着用すると回答したのは71％であった。同様に、68％が洗浄剤と消毒薬を使用した後は手洗いすべきであると回答し、73％はこれらの製剤を使用する際には適切な換気が必要であると回答した。洗浄剤、消毒薬、手指衛生剤の保管に関しては、79％が洗浄剤と消毒薬は子どもの手の届かないところに保管する必要があると答え、54％が手指衛生剤を子どもの手の届かないところに保管する必要があると回答した。

一方、漂白液の希釈について回答者の多くが適切な回答をしなかった。漂白液を希釈するときには、室温の水のみを使用すべきであると回答したのは僅か23％であり、漂白剤と酢を混合すべきでないという回答したのは35％であった。そして、漂白剤とアンモニアを混合すべきでないという回答したのは58％であった。



【SARS-CoV-2感染を防止するための洗浄と消毒の実施について】(図2)

回答者は、前月にSARS-CoV-2感染を防止する目的でさまざまな行為を行ったと答えた。60%の回答者は、前月に比べて家の掃除や消毒の頻度が増えたと答えた。そして、39%がSARS-CoV-2感染の防止のために、CDCが推奨していないハイリスク行為を少なくとも1つ意図的に行ったことがあると答えた。その内訳は、19%が食品(果物や野菜など)を漂白剤で洗ったことがあり、18%が手や皮膚に家庭用洗浄剤もしくは消毒薬を使用したことがあった。また、10%が洗浄剤もしくは消毒薬のスプレーを体に吹きかけたことがあり、6%が家庭用洗浄剤または消毒薬の蒸気を吸入したことがあった。希釈した漂白液、石鹼水、洗浄剤および消毒薬を飲むか、または、うがいをしたことがあるのはそれぞれ4%であった。



【健康への悪影響】

回答者の25%が前月に少なくとも1つは健康への悪影響を経験したと回答し、洗浄剤または消毒薬の使用が原因であると考えていた。その内訳は「鼻や副鼻腔の刺激(11%)」「皮膚刺激(8%)、目の炎症(8%)」「めまい、立ちくらみ、頭痛(8%)」「胃のむかつきまたは吐き気(6%)」「呼吸障害(6%)」であった。

■考 察

この調査によって、洗浄剤と消毒薬の安全な使用についての知識にギャップがあることが判明した。最大のギャップは「手指衛生剤を子どもの手の届かないところに保管することの知識」と「洗浄剤と消毒薬の安全な使用に関する知識」でみられた。前者では正しい知識をもっていた回答者は多かったが、後者では知識を持ち合わせていた回答者は少なかった。実際、漂白剤を酢またはアンモニアと混合し、熱を加えると、塩素ガスとクロラミンガスが発生し、吸入すると肺組織に深刻な損傷を与える可能性がある。また、子どもが手指衛生剤に曝露すると(特に、飲み込むと)、粘膜の刺激、胃腸への影響、そして重症の場合にはアルコール毒性を引き起こす可能性がある。手指衛生剤、洗浄剤、消毒薬の不適切な保管によって、それらを摂取し、その結果として毒性が発生するリスクはペットにも及ぶ可能性がある。

SARS-CoV-2感染を防止するための洗浄と消毒の実施について、回答者の大多数は自宅での清掃の頻度が増加したと回答した。しかし、約3分の1の回答者は「食品を漂白剤で洗う」「家庭用洗浄剤や消毒薬を皮膚に用いる」「洗浄剤や消毒薬を意図的に吸入または摂取する」などリスクの高い行為を行っていた。このような行為は深刻な組織の損傷や腐食性の損傷のリスクをもたらすため、是非とも回避すべきである。

■啓 発

COVID-19予防のための啓発では「頻回の手指衛生」「高頻度接触面の頻回な清掃および消毒」など、エビデンスに基づく安全な行為を引き続き強調する必要がある。それに加えて、洗浄剤と消毒薬を安全に使用するための推奨事項を追加すべきである。それには、「ラベルの指示を読み、それに従う」「希釈には室温の水を使用する(特にラベルに明記されていない限り)」「化学製品を混合しない」「皮膚防護具を着用する」「飛沫曝露から目を守る」「十分な換気をする」「化学製品や手指衛生剤は子どもやペットが届かないところに保管する」などが含まれるべきである(図3)。



【文献】(1) Gharpure R. et al. Knowledge and practices regarding safe household cleaning and disinfection for COVID-19 prevention — United States, May 2020
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/mm6923e2.htm>
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/pdfs/mm6923e2-H.pdf>

こちらも公開しています。

メディコン CDCガイドライン 検索

製造販売業者

株式会社メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎0120-036-541

crbard.jp

BD, the BD Logo are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. © 2020 BD. All rights reserved.

